

北陸圏広域地方計画懇談会での主な意見のとりまとめ

. 開催概要

回数	開催日時	会場	検討内容
第1回	平成19年11月2日(金) 13:30~16:00	ポルファート とやま	方針、戦略目標について
第2回	平成20年6月4日(水) 13:30~16:00	ホテル金沢	中間整理(素案)、プロジェクト(案)について
第3回	平成21年1月21日(水) 10:00~12:00	ポルファート とやま	中間整理(案)、広域連携プロジェクト(案)について

. 主な意見

1. 第1回懇談会での主な意見

全体構成や文章表現等について

中学生が読んで分かり易い表現

(主な意見)

- ・中学生が読んで分かるように問題を絞って分かりやすい計画としてほしい。

現状と課題、将来像及び戦略目標について

国土形成計画法の8つの分野を踏まえた戦略展開の構築

(主な意見)

- ・国土形成計画法では8つの基本分野が示されている。計画策定に当たっては、それら8つの分野に対する基本認識を整理した上で、それを踏まえて戦略を展開する流れがある方が計画として分かり易い。

地域の個性を活かした独自の方向性の明確化

(主な意見)

- ・総花的でなく、いくべき方向が明確にわかるものを示してほしい。
- ・地域格差が指摘される中で、それを克服していくためには、“この地域でなければできない”という発想を持たなければならない。

中部圏など太平洋側と北陸圏の関係を見据えた展開方向の明確化

(主な意見)

- ・地方は東京を見る時代ではない。欧米のキャッチアップからアジアに対して「追われる日本」をどのように作っていくかの視点が重要。
- ・全国的な人口動態を見ると、地方で育てた子どもが東京に働きに出るが、その東京では出生率が極めて低く、しかも団塊世代が高齢世代に入ってくる中で、今後より一層高齢化が進むと考えられる。そのような人口動態も捉え、将来の“中央(東京)”と“地方”の関係を今一度見極める必要がある。
- ・北陸圏の今後の方向性を考えるに際しては、東海道メガロポリスに対して“ものづくり”の観点や自然の観点からどのように相互補完していくのか、についても検討していく必要がある。
- ・北陸圏を取り巻く環境をみると、東アジアなどの経済発展の進む中で、日本海の位置づけが高まっており、日本海側と太平洋側が一体となって連携していくことが必要である。
- ・北陸圏にとっては、中部圏の力をどのように活かしていくのか、が重要である。例えば、愛知県とか浜松などの国内有数のものづくり拠点で製造された製品をアジア向けに輸出する際に、北陸3県の港湾から出す、3県の港湾が連携して輸出するような物流拠点となっていくことなどを考えなければいけない。

北陸圏が産業・経済、人材交流で見据える「環日本海諸国を始めとする東アジア」

(主な意見)

- ・北陸圏広域地方計画では“環日本海諸国”が随所に記載されているようだが、昨今のアジアの経済発展をみると、中国でも東北地方ではなく、南側の経済発展が進んでいる。現状を前提とした計画ならば、環日本海諸国を対象としても良いかもしれないが、10年後を見据えるならば、環日本海諸国に東アジアを併記して記載すべき。他圏域に遠慮する必要はなく、北陸は独自の世界的な展開をすべきと思う。
- ・エネルギー面で、環日本海諸国で考えると、北東アジアというとサハリンのガス供給のパイプラインやウラジオストクからの石油供給や中国の北東三省などの東北アジアが重要で、その観点からも北陸地域は重要。一方、現実には中国の企業集積は華南地方で進んでいることから、東アジアと北東アジアの両方を計画の中に記載していく必要があり、どちらも欠かすことができない。
- ・環日本海をきちんと定義する必要があり、現在のアジア進出では低賃金労働力利用型の産業が多い北陸では独自の対外政策を持たないといけない。北陸地域国際物流戦略チームでは、インランドデポのような独自の取組を行っている。
- ・北陸は住むにはいい場所であるが、できれば国際空港が近くにあるといいと思う。小松空港などが東アジアに向けて、国際ハブ空港化してくれるといいと思う。中国等からの留学生にも、国際空港があると望ましく、既に北陸先端科学技術大学院大学にも200人近い留学生がおり、留学生にも評判がよい。

日本海国土軸のフォローを強調

(主な意見)

- ・全国計画と広域地方計画の関係の中で、広域地方計画が各地方の独自性のある計画を記載するものであるとするならば、日本海国土軸のような横のつながりや相互連携については、全国計画の方でフォローして欲しい。とりわけ、全国計画では大都市圏と地方圏の連携が強く意識されているように感じるので、日本海国土軸のフォローをもう少し強調してほしい。

安全・安心で美しい地域づくり

(主な意見)

- ・北陸圏の計画で安全・安心がトップに来ることは北陸圏の美しい環境を守る上からも重要であり、トップにおくことに賛成である。安全・安心な暮らしがあり、環境も美しい、というのが日本の目指すべき国の形であり、その地域の代表が立山や白山を背景にした北陸地域だと考える。そのような安全・安心で美しい環境を守る中で培われた科学と芸術が地域に根付いており、匠の技術と先端技術との融合によって北陸圏は独自の発展をしていくのであり、東アジアの宝石となるのではないかと。
- ・北陸独自の美意識を入れると、心が美しい、技術が美しい、環境も美しい、芸術・製品も美しい、水もきれいだということで北陸の良さが出せるのではないかと。
- ・北陸の留学生の、北陸圏への印象は、“きれいな地域で、安全で、人々もやさしい”と非常に喜んでいる。

北陸圏で欠かせない“雪”の記載充実

(主な意見)

- ・“雪”は弱みではなく、特徴として生かしていくべきであり、地球温暖化の中で益々“雪”は大切な資源となってくる。
- ・北陸から“雪”は是非発信していくことが必要である。雪に暗いイメージをもたらすのは、冬期の交通途絶などがあるからで、このような対策は今後とも北陸においては重要である。

人口減少の進む半島地域や中山間地域における生態系保全と地域活性化

(主な意見)

- ・撤退も戦略的な撤退の発想をもってほしい。具体的に厳しい自然に対して限界集落などで撤退していく際に何をやるかだが、撤退するだけでなく、戦略的に生態系のコリドーを作るといった発想を持つとよい。農業を辞める人の多くは、鳥獣被害によりあきらめる人が多く、生態系のバランス回復は欠かせない。
- ・能登半島などは、過疎が進行しているが、民間企業経営者からみると経営改革として捉えられる市町村合併が終り、産業展開を考えていかなければならない。能登半島に昨今よく聞かれるITなどの基幹産業はなく、あるのは食料供給基地となる農業や漁業であり、さらに今後の発展のためには、それに観光を加えた地域産業振興を進めていくことが必要である。

地域産業の的確な把握に基づく付加価値向上、ものづくりと産業の連携

(主な意見)

- ・北陸は元来人口が他圏域に比べ相対的に小さく大企業が立地しなかったため、自分たちで産業を育てるしかなく、地域の自然環境資源を生かした特色ある産業が育成された。また、人口が少なくマーケットが小さかったために、富山の売薬のように外に向かって売りにいく、情報発信するというので、現在の情報産業につながっているのではないか。
- ・民間設備投資について、北陸は、前回調査で高い水準であり、最新の調査でもそれが維持されていることから、民間設備投資が好調であることに変わりはないが、北陸圏の産業は楽観できるものではないというニュアンスを入れて欲しい。
- ・マーケットはどこにおくのか、北陸の持つ要素技術で絞り込むとしたら何にするのか、などターゲットを絞り込むべきである。その際、要素技術を捉えるにも“繊維産業”を従来のような製糸と捉えるのではなく、最先端のマテリアル科学産業として捉えるなど、地域の産業をつぶさに把握する必要がある。
- ・国内に残る企業を見ると、付加価値を高めることに成功したものが残っており、そういう意味では、研究型産業の立地が求められるとともに、付加価値向上に向けたマーケティングも重要な取組となる。
- ・ジャストインタイムが要請される中で、“ものづくり”と“物流”をリンクして地域戦略の中に埋め込んで欲しい。

北陸の伝統、文化、食を活かした、地域経済に波及する観光の展開

(主な意見)

- ・北陸圏の特徴を生かして広域観光ルートを形成していくことが必要である。キーワードは、伝統の“こころ”と“かたち”である。
- ・海外からの観光客も無視できないものであり、能登空港にチャーター便を使って台湾などから年間2万人の人々が観光で北陸を訪れている。その目的は、日本の畳など日本の文化を求めて来ているのである。北陸でよく言われる一周遅れのトップランナーではないが、残った“日本らしいよさ”をコアコンピタンスとして生かして行けばよい。
- ・観光は、観光客の来訪によって、観光客に供する食材の提供やエネルギー供給など、地域の産業に少なからず波及していく。そのような観光を産業として見据えることを中部、北陸として捉えていく必要がある。

人口減少・高齢化において重要なバリアフリー

(主な意見)

- ・人口減少とともに高齢化の進行も暮らしに関しては重要なポイントである。そういう意味では、「子育て」が重視して触れられているように、「高齢者にやさしい」、「バリアフリー」などのキーワードを戦略の中に入れる必要があるのではないか。今後外国人を迎え入れていくことも考慮すれば、観光施設、文化財なども含めてバリアフリーは重要なポイントである。

次代の地域づくり、産業活性化を担う優れた人材の育成

(主な意見)

- ・北陸圏の特徴は、小さいながらもきらりと光る優れた個性を持っていること、中小都市と農村とがうまく共存していること、今年実施された全国共通学力テストでも示されたが北陸3県の学力は極めて高いこと、安定した地域社会が維持されていることなどである。
- ・北陸3県や北東北3県は、全国共通学力テストで極めて学力レベルが高いことが示された。学力レベルの高い若者が地元に残るようにしてほしい。そういう意味では、優秀な高校生がよい大学に行こうと東大、京大を目指すのではなく、北陸の大学の連携によって優秀な高校生が地元の大学に行くことを考えるようにしてほしい。
- ・北陸3県は、小中高等学校までは、トップレベルであるが、地元企業にハイレベルな教育を受けた人材が来ない。確かに地域に先端産業があるが、土地、人、水を使う産業しかなく、研究機関がない。北陸には、研究者などのハイレベルな教育を受けた人々に最良の暮らしやすい良好な環境があるのだから、今後はどうやってハイレベルな教育を受けた人材に来てもらうか、を考える必要がある。
- ・教育課程の中での重要な要素として、インダストリーインターンシップやプロジェクトマネジメントなどがあり、今後優秀な学生を集めていくためには、インダストリアルストラクチャーなど学生ニーズに合ったプログラムを作っていく必要がある。
- ・今後は産学協働が重要であり、教育の過程で大学と企業家が連携して実践教育を展開していくことが必要である。

事業の実現性を見据えた広域の基盤施設及び事業実施主体者の役割分担の記載

(主な意見)

- ・個性ある計画を明示する広域地方計画に対して全国計画では、基本的、広域的な基盤施設を示すものと理解していたが、全国計画の素案を見ると、どうもそのような施設について明示されていない。広域の基盤施設について、どこかで記載すべきではないか。
- ・計画に記載される事業のスピード感への懸念がある。東海北陸自動車道は40年前に構想されてから、ようやく完成に近づいており、北陸新幹線に至っては、同じ頃に構想されながら、未だ完成まで数年を要する。事業に関してはその実現性をよく考えてほしい。
- ・事業実施主体者である国や県、市町村の役割を明確に記載する必要がある。
- ・広域地方計画は誰が“いつ頃まで”にやるのか、をはっきりさせる必要があるのではないか。

2. 第2回懇談会での主な意見

現状と課題、将来像及び戦略目標について

北陸圏の特徴や特有の課題を分かりやすく整理

(主な意見)

- ・現状・課題の整理に当たっては、北陸圏の特徴や特有の課題が分かりやすく整理されていることが必要。

(対応)

「第1章 北陸圏の現状と課題」のタイトルや文章の中で、北陸固有の特徴等を明示的に追記・再整理した。(参照；計画原案P3～22)

北陸圏で欠かせない“雪”の記載充実

(主な意見)

- ・雪に関する取り組みの記載が弱い、北陸圏にあっては、雪の視点が重要であるため、関連記載を充実することが必要。

(対応)

「第1章 北陸圏の現状と課題 2 北陸圏の課題」の中で、降積雪に関する課題の記載順位や記載内容の再整理を行った。(参照；計画原案P17～18)

中部圏など太平洋側と北陸圏の関係を見据えた展開方向の明確化

(主な意見)

- ・「環日本海諸国をはじめとした東アジア」との記載が用いられており、三大都市圏を後背地とした日本海側の玄関口として北陸圏を位置づけていることは大いに評価できる。
- ・広域ブロックごとの成長を考える上で、現下の一極集中の是正に向けて、大都市圏と地方圏の関係を今後どうしていくのか、その方向性の整理が必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、将来像や副題において、三大都市圏を見据え、環日本海諸国を始めとする東アジアに展開する「環日本海交流の中核拠点」としての北陸圏の目指す方向を記載した。(参照；計画原案表紙)

広域連携プロジェクトについて

プロジェクト全体

地域を巻き込んだ議論活性化に向けた具体策の提示

(主な意見)

- ・広域連携プロジェクトでは、県や市町村を巻き込んだ幅広い検討を行うべき。その際、議論を活性化させるため、具体策を示すことも必要。

(対応)

県や市町村など関係機関からの意見反映を図り、広域連携プロジェクトの充実を行っている。(参照；計画原案P57～80)

人づくりの観点からのプロジェクトの充実

(主な意見)

- ・地域活性化において重要な人づくりなどの観点からプロジェクトを充実することが必要。

(対応)

プロジェクト全体にわたって、人材育成への取組を各プロジェクトの目的・コンセプトに合わせ記載した。(参照；計画原案 P 57～80)

事業の実現性を見据えた広域の基盤施設及び事業実施主体者の役割分担の記載

(主な意見)

- ・多くの主体者間の情報共有と参加の場の形成、関係機関の役割分担などを明確するなど、広域圏としての一体感を高め、プロジェクトを推進する体制づくりを進めることが必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、広域的、組織横断的な取組体制構築、プロジェクトのモニタリング体制や仕組みについて、「第6章 計画の実現に向けて」で、記載を充実した。

(参照；計画原案 P 90～91)

東アジアに展開する日本海中枢拠点形成プロジェクト

人材育成に向けた産学官連携の充実

(主な意見)

- ・人材の育成と職場の確保に向けて、連携して取り組んでいくことが必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、優秀な人材の確保・育成に向けた産学官交流・連携の取組について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 58～59)

北陸圏が得意とする分野への戦略的取組の充実

(主な意見)

- ・炭素繊維の航空機や自動車への活用促進など、富山のバイオや医薬、石川の機械、福井の繊維など得意とする産業が先端技術により連携することによる新産業創出への取組が必要。
- ・中国の大学城のような産業活性化に資するキーテクノロジーによる大学の連合組織化も重要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、北陸圏の持つ産業集積を活かした産業クラスター形成への取組について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 58)

環日本海経済圏の動向を見据えた国際物流戦略の構築

(主な意見)

- ・東アジアへの日系企業の立地動向や極東での取組を進めるロシアとの関係など、環日本海経済圏の動向を見据え、港湾ごとの特色ある展開を前提とした国際物流戦略の構築が必要。その際、物流コストを下げる北陸圏内の広域交通ネットワークの強化に向けた取組も必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、環日本海における多様な輸送経路の充実など国際物流機能の強化に向けた取組について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 59～60)

高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成プロジェクト

国内外観光客のニーズを踏まえた最先端の取組や地域情報システムの構築

(主な意見)

- ・中国や香港、台湾など海外観光客のニーズ変化を捉えた、食べ物、雪、歴史・文化など北陸圏の魅力を活かした産業観光、エコツーリズム、環境観光、景観観光といった最先端の取組が必要。
- ・会議などを開催する際、食や宿泊などもパッケージでセットしてほしい、といった来訪者のニーズに応えられるような、地域情報システムの構築が必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、北陸圏の持つ多様で豊かな資源を活かした、国際的にも競争力のある観光交流圏形成に向けた魅力ある観光エリア、観光メニュー充実や、県を越えた連携組織の強化による観光情報発信やキャンペーンの展開等の取組について、記載を充実した。

(参照；計画原案 P 63～65)

中部圏と連携した広域観光コースの構築

(主な意見)

- ・高速交通システムの整備を踏まえて、多くの潜在する観光資源を掘り起こし連携した、セントレアから入国し小松空港から帰国するような東アジアからの観光コースの構築が必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、北陸圏の持つ多様で豊かな資源の活用した広域的な観光コースの充実について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 64)

あわせて、「第5章 隣接圏域との交流・連携 2 北陸圏・中部圏の連携した取組」の中で、両圏域連携での観光魅力増進の取組について、記載を充実した。

(参照；計画原案 P 83～84)

豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成プロジェクト 北陸新幹線の開業効果を高める取組の充実

(主な意見)

- ・都市的なサービスも含め生活圏域をしっかりと構築するとともに、線状に連なる都市をコンパクトに繋げた圏域形成が必要であり、料金抵抗の克服など近接性向上に寄与する北陸新幹線の開通効果を高める取組が必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、北陸新幹線の開通を見据えた、身近な生活サービスや都市機能の強化と広域的な連携による高次都市機能の効果的・効率的な強化について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 68 , 70)

子育て支援を始めとした誰もが安心して暮らせる地域づくりへの取組の充実

(主な意見)

- ・北陸ならではの子育て環境を維持していくため、子育てへの支援が重要。
- ・中高年の労働者が多く中で、こうした人々が今後も働いていける地域づくりも必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、こども、子育て世代、高齢者などの誰もが安心・快適に暮らせる生活環境の向上への取組について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 69)

北陸圏の暮らしやすさの情報発信

(主な意見)

- ・人口減少下にあっても人を集めることができるよう、「暮らしやすい場所」という情報発信が必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、定住促進に向けた北陸圏の強みである暮らしやすさの情報発信の取組について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 70)

いきいきふるさと・農山漁村活性化プロジェクト

中山間地域等における高速交通やICTを活用した救急医療の充実

(主な意見)

- ・中山間地域に住み続ける上での日常生活の利便性の確保を念頭に、防災や防犯への備え、ICTを活用した高次医療や救急ヘリ、高速交通の充実による救急医療の充実などが必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、医療などへのICTの多様な利活用や救急医療機関への高速交通基盤の充実について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 72)

地球温暖化対策としての森林や里地里山の保全・利用

(主な意見)

- ・「世界的な人口爆発」、「地球温暖化」など全世界的な課題への対応という観点から国土利用の中で、「林地」「農地」の利用を記載していくことが必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、地球温暖化防止等の観点にも留意した里地里山の保全に関する取組について、記載を充実した。(参照；計画原案 P71～72)

防災技術・地域コミュニティを活かした北陸防災力強化プロジェクト 雪を始めとして災害に強い地域づくり

(主な意見)

- ・広域交通において雪対策を進めることなど、雪に強い地域づくりについて記載することが必要。
- ・北陸圏の特性は災害の多い地域であり、災害に強い地域づくりが必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、雪害対策や信頼性の高い交通ネットワークの形成について、記載を充実した。(参照；計画原案 P74)

立山・黒部や白山等山岳地域の自然環境保全プロジェクト 立山連峰から富山湾に至る高度差 4,000m の水と命の循環モデルの構築

(主な意見)

- ・富山の標高 3,000m の立山連峰から富山平野を経て海拔 -1,000m の富山湾に続く高度差 4,000m の水の循環、命の循環のモデルを地域活性化に結びつけていくことも必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、山岳地域から日本海の海洋までの水循環系の構築に向けた組織横断的な取組について、記載を充実した。(参照；計画原案 P77)

次世代に継承する日本海沿岸地域の環境保全プロジェクト 地球温暖化対策等に向けた国際的な協力の充実

(主な意見)

- ・地球温暖化がもたらす異常気象によって災害規模が拡大する中で、地球温暖化などへの対処には、国内だけに限らず、国際的な協力に関する記載が必要。

(対応)

ご指摘を踏まえ、地球温暖化など、環日本海地域における環境問題解決への国際協力の取組について、記載を充実した。(参照；計画原案 P79～80)

3. 第3回懇談会での主な意見と対応

全体構成や文章表現等について

金融危機に端を発した経済危機への対応

(主な意見)

- ・アメリカの経済破綻による日本への影響に対して、萎縮するのではなく地方から高い志を示すような将来像を提示していくことが重要ではないか。
- ・今回の金融危機による景気の悪化による影響は、懸念されるものの、計画の検討にあたっては、地域発展の傾向を長期的な視野から考えるべきであり、インフラ整備についても地域の発展の視点であり方を検討すべきものではないか。
- ・金融危機による経済の悪化など現在の経済、社会の変化が激しい時代にあって、地方をどう元気にさせるか、国土計画や地域計画でどう対応すべきか慎重な検討が必要である。

(対応)

基本的には、北陸圏広域地方計画の策定スタンスを変えるものではないものの、米国の金融危機に端を発した経済危機に関しては、北陸圏においても、その影響が懸念されることから、「はじめに」の中の「1. 計画の策定に当たって」の中で、景気低迷への認識と課題認識について記載を行った。(参照；計画原案P1)

あわせて、「第1章 北陸圏の現状と課題 2 北陸圏の課題」の中の「(2) 日本海側有数の人口・産業・経済等の集積の活用」にも必要な記載を行った。(参照；計画原案P10)

分かり易い戦略目標の構成

(主な意見)

- ・2つ目の将来像に関連する目標の3と4については、中味が類似しているように見え、その差が分かりにくいいため、分かりやすいように分け方を再検討してはどうか。

(対応)

人口減少・高齢化、世界的な金融危機下にあって、三大都市圏や環日本海諸国を始めとする東アジアに対する地理的優位性を活かした地域づくりを展開することが8つの圏域の中で最も人口規模や経済規模の小さい北陸圏にとって重要であることから、国際競争力のある産業の育成について記載している目標を1番目、観光や文化交流について記載している目標を2番目、暮らしの充実について記載している目標を3番目、そして、それら3つの目標を支える交流基盤について記載している目標を4番目と、入れ替えることとした。

さらに、目標の3(新しい目標の4)では、タイトル名称で記載内容がイメージできるよう、「目標4 日本海側の中枢拠点の形成に向けた交流機能の強化」と修正した。

(以上、参照；計画原案の目次、P24)

あわせて、戦略目標のタイトルの「(1) 国内外に展開する信頼性の高い交通ネットワークの形成・強化」を「(1) 国内外に展開する信頼性の高い物流・旅客機能の形成・強化」と修正した。(参照；計画原案P53)

東アジアの定義の明確化

(主な意見)

- ・一般的な東アジアの概念は、我々が認識しているものと違う可能性があるため、日本海に面する北陸圏において地理的に近く関わりが重要なロシア、モンゴルも含め、東アジアと北東アジアとするような表現が必要である。

(対応)

「東アジア」に関する定義については、全国計画で、「東アジアの範囲」として明記していることから、これを引用し、本文中の注釈として記載した。(参照；計画原案 P1)

現状と課題、将来像及び戦略目標について

降積雪対策の記載の充実

(主な意見)

- ・北陸圏の雪の問題は全国に比して大きいことから、降雪に関する課題や官官連携による幹線道路の交通確保など先駆的な既往の取組などについて、記載を充実する必要がある。
- ・高速道路等の安全・確実な交通を確保しなければ、企業などが北陸から逃げていく可能性もある。「交流・連携における安全・確実な交通の確保」についても記載を充実してほしい。

(対応)

「第1章 北陸圏の現状と課題 2 北陸圏の課題」の中の(降積雪に対する備え)の項において、降積雪対策の記載を充実した。(参照；計画原案 P17～P18)

あわせて、「第3章 新しい将来像実現に向けた戦略目標」の- 克雪対策 -の項についても、降積雪時の交通対策などについて記載を充実した。(参照；計画原案 P45)

広域連携プロジェクトについて

プロジェクト全体

プロジェクトの分かり易い構成と地域の枠を越えた連携施策の具体化

(主な意見)

- ・防災など全体にまたがるものを見せた上で、都市圏や生活圏単位でどのようにしていくのかを見せていく必要がある。
- ・プロジェクトの優先順位など濃淡を重層的に表現することで、13の戦略目標から9のプロジェクトへの直線的な関係性の表現方法、記載順番について再検討してほしい。
- ・広域的な計画では、県、市町村などの組織の枠を取り払う必要がある。
- ・三大都市圏に近接する非自立的な経済圏である北陸圏にあっては、県同士、三大都市圏、組織間、対岸の環日本海地域、それらの垣根を外していくことにより、連携のシナジー効果を

(対応)

戦略目標と広域連携プロジェクトの関係を整理し、戦略目標に合わせ、広域連携プロジェクトの並び替えを行った。

また、広域連携プロジェクトでは、県を越えた広域的に連携して実行する具体的な施策の記載を行った。(参照；計画原案 P57～P80)

東アジアに展開する日本海中枢拠点形成プロジェクト

県を越えて連携して取り組む、北陸圏が優位性のある繊維分野等の重点化

(主な意見)

- ・ 県を越えた連携や、北陸圏の産業活性化のあり方を見つめ直していくことが必要である。
- ・ 富山県と石川県の健康・医薬分野に加え、福井県と石川県の繊維分野、具体的には東レの企業グループで取組を進める炭素繊維なども今後のクラスター形成において重要な分野である。

(対応)

北陸圏が優位性を持つ健康医療や炭素繊維などの産業クラスター形成について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 58)

港湾の強みを活かした圏域全体での港湾機能強化への効率的な投資

(主な意見)

- ・ 各港湾の役割分担を明確にし、各得意分野(強み)を活かした重点投資を図ることで、北陸圏全体での港湾機能を強化するといった効率的な投資を進めていくことが重要である。

(対応)

港湾間の連携について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 59～60)

高速交通基盤を活かした北陸観光交流圏形成プロジェクト

歴史資源をストックとした活用や新しい観光スタイルの創出への取組充実

(主な意見)

- ・ 温泉、食べ物、雪、歴史・文化といった既存観光資源を大事にし、世界文化遺産登録のような既存のものの価値を定義し、活かす事が重要である。
- ・ 北陸の歴史資源のストックをインフラとして扱うことで他ブロックとの差別化が明確になる。
- ・ 来訪者に飽きられぬように、ヘルスツーリズムといった新しい温泉の活用など先端的な取組や産業観光、エコツーリズムといった新しい観光に取り組んでいくことが必要である。

(対応)

北陸の地域資源を活かした個性的な観光拠点形成や新たな観光形態の創出等、満足度の高い魅力ある観光地域づくりに関する取組について記載を充実した。(参照；計画原案 P 63)

北陸新幹線等の広域交通を活かした、広域観光の取組強化

(主な意見)

- ・ 北陸圏以外の観光地との連携による魅力ある観光地づくりについて具体化するとともに、それら観光地を直結する北陸新幹線と二次交通の強化の重要性も示すことが必要である。
- ・ 北陸圏の持つ上質の観光資源と北陸新幹線など広域交通を活かした、広域観光に戦略的に取り組むことで、より観光の魅力を高めることができるのではないか。

(対応)

三大都市圏や海外からの来訪者に魅力ある広域観光ルートの具体的な構築について、他圏域とも連携しつつ検討するとともに、広域観光ルート構築を支援する交通ネットワークの強化に関する取組について記載を充実した。(参照；計画原案 P 64)

北陸圏全体の観光戦略の構築・展開を支える広域連携組織の強化

(主な意見)

- ・上質の観光資源を持つ北陸にあって、ユニークな観光のあり方を再検討すべき時期にきており、観光戦略の展開を見直すべきではないか。

(対応)

広域的な観光戦略の構築・展開に向けて、その第一歩となる北陸圏の広域的な観光推進体制の強化に関する取組についての記載を充実した。(参照；計画原案 P 65)

食料供給力増強・食の北陸ブランド展開プロジェクト

食のブランド価値の保護

(主な意見)

- ・海外でのコピーによるブランド流出を防止することも考慮すれば、食のブランド化とともに、知財保護の取組が重要であり、そういったことも記載してほしい。

(対応)

「北陸ブランド」の構築において、主旨を反映した。(参照；計画原案 P 66～ P 67)

豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成プロジェクト

豊かな暮らしぶり等、プロジェクトの目指す方向を分かりやすく名称表現

(主な意見)

- ・プロジェクトのタイトル記載では、「日本海沿岸」等、まぎらわしい表現、形容詞は避け、定義のしっかりした表現を使用することが必要である。
- ・これからは、「住み良さ」だけでなく、「衣食住全てにおいて豊かな暮らしぶり」が求められるので、これを入れていくべきある。

(対応)

ご指摘を踏まえ、わかりやすい表現とするとともに、目的・コンセプトに掲げる暮らしの豊かさを磨き上げていくことが伝わるよう、プロジェクト名称を「5 豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成プロジェクト」に修正した。(参照；計画原案 P 68)

地域医療や広域医療、バリアフリーなど福祉の充実

(主な意見)

- ・能登半島や中山間地域での、安全安心な暮らしの確保のためには、地域医療や広域医療の充実、子ども、高齢者、障害者も加えたバリアフリーなど福祉の充実等の記載が必要である。

(対応)

ご指摘を踏まえ、「5 豊かな暮らしを育む接続型都市圏形成プロジェクト」の中で、(医療・福祉サービスの充実)について、記載を充実した。(参照；計画原案 P 69)

いきいきふるさと・農山漁村活性化プロジェクト

農山漁村活性化における生活の持続性から交流等への展開の構築

(主な意見)

- ・農山漁村活性化では、まず居住、生活の持続性を図った上で、活性化に向けた取組に展開していくべきであり、そのような整理が必要ではないか。
- ・地域の再生、活性化という面で、リタイヤした人が戻ってこられるような環境整備を進め、移住者をどう増やすかが課題である。

(対応)

ご指摘を踏まえ、集落機能の再生や里山などの多面的機能の維持を先に記載し、それを支える都市と農山漁村の交流、農林水産業への新規就業促進の順で記載を充実した。

(参照；計画原案 P 71～73)

原生自然の保護・保全と鳥獣被害防止に向けた生態系保護の記載整理

(主な意見)

- ・原生自然の保護・保全と鳥獣被害防止上の生態系保護は分けて考えることが必要である。

(対応)

ご指摘を踏まえ、鳥獣被害防止対策については、「6 いきいきふるさと・農山漁村活性化プロジェクト」へ移動・集約した。(参照；計画原案 P 72)

防災技術・地域コミュニティを活かした北陸防災力強化プロジェクト

広域防災を支える交通のリダンダンシーの確保に関する記載の充実

(主な意見)

- ・防災に関するプロジェクトでは、交通システムの面から、代替性、リダンダンシーに関する記載を強調することが必要である。

(対応)

ご指摘を踏まえ、広域防災を支えるリダンダンシー機能を発揮する交通ネットワーク確保策に関する具体的な取組について記載を充実した。(参照；計画原案 P 76)

隣接県ととの交流・連携について

白山など北陸圏の山岳をシンボルとした環境を軸とした中部圏との連携プロジェクトの構築

(主な意見)

- ・濃尾平野からも眺められ、信仰の対象となる白山など北陸圏の山岳は、太平洋側との環境面でのシンボルとなるため、環境を基軸とした連携のあり方についても、検討を進めてほしい。

(対応)

ご指摘を踏まえ、関係機関との協議も行った上で、「第5章 隣接圏域との交流・連携 2 北陸圏・中部圏の連携した取組」の(環白山・環北アルプス広域エコロジープロジェクト)の記載を充実した。(参照；計画原案 P 85)

近畿圏を始めとしたその他隣接圏との連携に関する記載の充実

(主な意見)

- ・近畿圏に向けて、「琵琶湖の西側から近畿を展望する」といった近畿圏との連携を支える高速交通基盤の整備をイメージさせる表現を盛り込んでいくべきではないか。
- ・伏木富山港や金沢港、敦賀港などの重要港湾や富山空港、小松空港、能登空港などのアジアへの国際ルートを持つ空港などが集積し、物流、人流の面で玄関口に北陸圏は位置づけられることから、近畿圏をはじめとした隣接圏との連携について強調すべきである。

(対応)

ご指摘を踏まえ、「第5章 隣接圏域との交流・連携 3 その他隣接圏との交流・連携」について、記載を充実した。(参照；計画原案P87～88)